

【鳴門市行政評価】

平成27年度事務事業評価シート(26年度実績)

◎基本情報

事務事業名		「笑顔うずまくまちに！」なるとワールドカフェ開催事業		担当部署	企画総務部部 戦略企画課	
総合計画体系				根拠法令 計画など		
基本政策(大項目)	4	おおきく躍動みんなで創るまちづくり				
政策(中項目)	1	全員参加で創るまち なると		事業期間	開始	平成 <input type="text" value="26"/> 年度
(小項目)		市民参画・市民協働				
施策	1	市民参画・市民協働の推進				
基本事業	1	市民参画と協働の意識醸成と体制づくり			終期	未定 <input type="text"/>

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 18歳から45歳までの鳴門市民または鳴門市に関わりのある方等						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	鳴門市に在住もしくは関わりのある若者に、鳴門市のこれからについて考える場を提供し、それを通じて若者のまちづくりに対する意識醸成を行い、今後の鳴門市を担う若年層のひとづくりへとつなげていく。						
事業計画	26年度に何を計画していたか	・ワールドカフェを継続で1回開催。気軽に市政参加できる場として継続実施する。						
成果目標	事業目標の達成度合	指標名	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	単位
		参加者数	53	30	20	20	20	人

◎実施結果(DO)

事業実施内容	26年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	・徳島大学と関西学院大学の合同ゼミで、鳴門の観光について、鳴門のフィールド調査をした後、ワールドカフェ形式で意見交換 ・大学生による事業評価事業をワールドカフェを利用する形式で行い、多くの意見を聴取した。					
事業実施手法		<input checked="" type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他					
指標名		25年度実績	26年度実績	27年度目標	28年度目標	29年度目標	単位
活動指標 実施した事業の活動量を示す指標	1 開催回数	3	1	1	1	1	回
	2						
成果指標 対象にどのような効果があったか示す指標	参加者数	53	38	-	-	-	人
	目標達成率(実績/目標)		126.7	-	-	-	%
今年度の進捗状況	計画どおり	事業全体の進捗状況				-	

(千円)

財源内訳	平成26年度	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
		当初予算額		0	0	0	0	35	35
		全体予算額		0	0	0	0	35	35
		決算額		0	0	0	0	3	3
		繰越額		0	0	0	0	0	0
	人件費		正規職員(6,878千円/人)	臨時職員(2,023千円/人)	総人件費		総事業費		
		0.1	0.0	688		691			

【鳴門市行政評価】

【事務事業名:「笑顔うずまきまちに！」なるとワールドカフェ開催事業】
(千円)

事業費推移	年度	25年度決算	26年度決算	27年度	28年度	29年度
	事業費	116	3	-	-	-
	うち一般財源	116	3	-	-	-
	人件費	1,955	688	-	-	-
	総事業費	2,071	691	-	-	-

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値		所見欄
①活動に対する評価	有効性	B:概ね有効性があった		大学生から鳴門について率直な意見やアイデアを多くもらうことができた。
	効率性	A:効率的だった		大学の合同ゼミを利用するなど、効率的に行うことができた。
②成果に対する評価	指標名	参加者数		ワールドカフェは参加者に好評で目標を達成できた。
	目標	30	人	
	実績	38	人	
	評価	A:目標を達成できた		
③総合的な評価		B		ワールドカフェのアイデアをどう生かしていくかが重要であり、B評価としたい。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	ワールドカフェ自体はコミュニケーションの手法の一つであり、これを継続的に開催することより、この手法をいかなる場面で使っていくかが課題となる。 またどのように出たアイデアを実現させていくかが課題となる。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	2
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	H27年度	事業開始時などの、ざっくばらんにアイデア出しをする場において、今後もこの手法を活用していく。			
	H28年度	同上。			